意見書

■ 意見書案第４号　「非核三原則」の堅持を強く求める意見書

可決

<要　旨>

日本には「核兵器のない世界」をめざす行動の先頭に立つ責任がある。「核を持たず、つくらず、持ち込ませず」の三原則は、世界で唯一の戦争被爆国である我が国が国是として強く位置づけ、核兵器の廃絶をめざす平和国家・日本の礎として確立されている。よって、国に対し、国是である非核三原則を堅持されることを強く求めるものである。

■ 意見書案第５号　給付付き税額控除制度の導入に関する意見書

可決

<要　旨>

国においては、地方の実情を十分に踏まえ、行財政運営に十分に配慮した制度設計とすることが何より重要であることから、次の事項について、対策を講じるよう強く求める。

1　国として、地方が提供する社会保障サービスをはじめとする各種行政サービスに影響が及ぶことのないよう、必要な財源を確実に措置すること。

2　給付事務について、地方の負担に十分に配慮した効率的で簡素な制度とするとともに、人材の確保が困難な自治体に対する支援を講じるなど、負担軽減に最大限努めること。

意見書案第４号、第５号については関係機関に提出しました。

討　論　議案第90号　令和7年度白河市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定について

認定

賛　成　　大竹　功一 議員

「決算とは歳入歳出予算に基づく収入と支出の結果を集計した計算書である。予算を執行した結果、どのような成果を挙げたかを示す成果報告書でもある」とも言える。そのため議会は、決定した予算が適正に執行されたかどうかを審査するとともに各種資料に基づいて、その行政効果や経済効果を測定し、住民に代わって行政効果を評価することとなっている。

そして、審査の結果が、後年度の予算編成や行政執行に生かされるよう指摘することが重要である。今回、歳出における各事業について、私を含む決算審査特別委員会の8人の委員は、真摯に審査し、担当者に対して質疑をし、今後についても意見を申し上げた。よって私は、令和7年度白河市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定ついて、賛成すべきだと判断した。

反　対　　深谷　弘 議員

一般会計予算案の審議の中で、学校給食費無償化への市のスタンス（姿勢）を取りあげ、市民の願い、期待に応えたものとはなっていないと指摘した。市の財政状況は健全であり、常に80億円を超える積立金がある。これらを活用すれば、市独自の無償化を実現できると提案した。

これに対し、市は「決して否定するものではない、市のやる気、決断の問題ではなく、財源の継続的な確保を理由に挙げ、国による一律無償化の動きを注視しながら慎重に議論していく」というスタンスを変えようとしない。

余裕財源である財政調整基金、減債基金及び公共施設等整備基金の合計額は、常に80億円超であり、令和７年度は年間3.6億増の84億6,172万5,000円となった。

積立金の活用について、市は公共施設整備等に今後多くの財源が必要となり、財政健全化の視点から積立金を活用する考えである。物価高騰で暮らしが大変なとき、市に求められているのは、市民の負担軽減を図ることではないか。